

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0177200078		
法人名	環境開発株式会社		
事業所名	グループホームのぞみの家		
所在地	〒079-1151 北海道赤平市宮下町3丁目1番地 (電話) 0125-32-2003		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年12月18日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 8月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	14人, 非常勤 7人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨(一部2階建て) 造り		
	2 階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円(月額30,000円)		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.5歳	最低	76歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	赤川医院、平岸病院、神山歯科医院、市立赤平総合病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、2館のグループホームと認知症デイサービスが同一敷地内に併設されており、住宅地に近く、公園の中で暮らしているような立地環境である。母体法人は株式会社であるが、古くから社会福祉事業に関わり、地域貢献の意義あいをもちグループホームを開設している。利用者一人ひとりの生活やペースを大切に運営をしており、地域の中で暮らしていくことを意識している事業所である。また、行政や医療機関との連携を持ち、協力関係を確立している。外出支援にも力を入れており、毎週のように利用者は旅行や外食を楽しんでいる。事業所の中は落ち着いた雰囲気、季節の飾りつけも自然なものでまとめており、利用者が暮らしやすい工夫をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、計画書について、問題・課題という視点からのニーズを記載し、利用者主体の記入方法に至っていない点の指摘があったが、記入方法を本人主体の「望む生活」の書き方に改めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価では、家族から意見があった時の運営推進会議での取り扱い方法について検討し、家族から意見があった時には、運営推進会議に報告することを考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催している。利用者の状況、サービス利用状況、外部評価の結果などについて報告し、意見交換をしているとともに、会議の内容は、全職員に周知している。また、地域ケア会議や自治体病院の会議に参加し、意見交換を行っているほか、認知症家族の会などの各種団体の会議にも参加し、連携を深めている。また、認知症の講演依頼があり、講師として協力している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族に介護日誌やたよりを送付して、利用者の日ごろの暮らしぶりを伝えている。また、年に数回、広報誌を発行して、事業所の行事の様子を伝えているとともに、利用者の状態に変化があれば電話にて伝えている。毎月送る介護日誌などに、意見を書く用紙を同封し、些細なことでも家族に記入してもらっている。面会時にも、家族と意見交換を行い、サービスに反映する努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の祭りには、みこしが事業所を訪問してくれる。また、近くの小学校の行事に参加したり、新入生用の花を作って学校に届けるなどの交流を行っている。ボランティアの受け入れも、積極的に行っている。商工会に加入しており、町のイベントに利用者が参加しやすいように協力を得ている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを意識した介護運営理念を掲げている。パンフレットにも、外出支援に力を入れ、住み慣れた地域の中で生活を継続していくことの支援をうたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週1回、申し送りの時に理念を唱和しており、日ごろから理念に沿いながら利用者に関わっている。職員は、「利用者のペースを守ること」「家族の気持ちになって」と、理念を意識しながら支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りでは、みこしが事業所を来訪している。また、近くの小学校の行事に参加したり、新入生用の花を作って学校に届けるなどして交流している。ボランティアの受け入れも、積極的に行っているほか、商工会にも加入しており、利用者が町のイベントに参加しやすいような協力が得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価では、計画書が利用者主体の記入方法になっていなかったため、記入方法を本人主体に改めている。今回の自己評価では、家族から意見を得た時の、運営推進会議での取り扱い方法について検討している。自己評価は、管理職を中心とした評価委員会で評価を行い、結果について職員に周知している。	○	ガイドブックの各評価項目を達成しており、かつ外出支援にも力を入れている。今後は更に、現状のサービスに満足することなく、全職員で評価項目の一つひとつについて意味を考え検討していくことで、新たな視点でサービスの質の向上を図る取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催している。利用者の状況、サービス利用状況、外部評価の結果などについて報告し、意見交換をしている。会議の内容は、全職員に周知している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や自治体病院の会議に参加し、意見交換を行っている。認知症家族の会など、各種団体の会議にも参加し、連携を深めている。また、認知症の講演依頼があり、講師として協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族に介護日誌やたよりを送付して、利用者の日ごろの暮らしぶりを伝えている。また、年に数回、広報誌を発行して、事業所の行事の様子を伝えているほか、利用者の状態に変化があれば、電話で伝えている。預かり金の出納状況については、家族から確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族に送る介護日誌等に、意見を書く用紙を同封し、些細なことでも記入してもらっている。面会時にも、家族と意見交換を行い、サービスに反映する努力をしている。家族から、意見や要望があった時には、運営推進会議に報告することを検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にとどめている。異動の時は、広報誌や手紙にて家族に連絡している。異動の前には、新旧の職員が数週間ペアで勤務し、十分な引継ぎを行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員の教育は、計画的に実施している。また、職員は、勤務内容や経験年数に応じて、外部研修に参加し、研修内容については報告書を全職員に回覧して周知している。外部研修では、医療やリハビリテーションの研修受講に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やスタッフ研修会に参加し、意見交換を行っている。旭川や札幌の病院とも連携を取り、他の事業所を訪問するなど、サービスの質の向上を目指して意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が本人宅を何度か訪問したり、事前に事業所を見学してもらうとともに、希望により事業所の体験利用ができるなど、馴染みの関係を築けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の残存能力を持続するように関わるとともに、利用者から教わりながら、家事などの共同生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の気持ちや考えを尊重するように心がけている。意思の疎通が困難な利用者からは、しぐさや表情から意向を汲み取ったり、家族と相談しながら検討している。家族の希望や意向については、手紙をもらったり、面会時に確認したりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日ごろの関わりの中から情報を収集し、家族からも話を聞いて、利用者や家族の意向を重視した計画を、関係者で話し合いながら作成している。昨年は、介護計画書に、問題・課題という視点からのニーズを記載していたが、利用者本人主体の「望む生活」の書き方に改めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね3ヶ月毎に定期的な見直しをするとともに、利用者に状態変化があるときは、本人や家族と相談しながら、計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出などの支援をしている。また、看護職員を配置して、医療面での不安を軽減しているとともに、認知症の専門医と連携を取って、利用者の状態に合わせたケアをしている。短期入所の希望にも、自費で応じているほか、家族の宿泊も可能である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方であっても、家族や本人が希望する医療機関に通院している。受診の送迎は、家族と相談の上、職員で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応指針を定め、利用者の状態が変化した時は、医療機関や家族と話し合いながら検討している。AEDなどの使用にかかる同意書を提出してもらい、緊急時の対応がスムーズになるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守るような声かけや対応をし、職員同士で確認し合っている。利用者の記録を書くときは、台所で見守りをしながら行い、記録の保管場所は事務室内としている。ケアマニュアルの中でも、プライバシーの配慮について示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務や都合に合わせた生活にならないように、利用者の体調に合わせた本人のペースで、それぞれに選んでもらうことに配慮した生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・配膳・片付けなど、利用者の能力に応じて、体調にも配慮しながら、食事の準備等をしている。利用者の体調不良時には、代替品の食事を用意している。食事中は会話を交えながら、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯の指定はせず、毎朝お湯を入れ、入浴したい時に入ることができるように配慮している。入浴剤を使用したり、温泉に出かけたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴を把握し、能力を勘案しながら、したいこと・できることを見極めて、塗り絵・買い物・調理・畑作り・漬物作り・カラオケ・読書などを、日常生活の中で楽しめるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調等を考慮しながら、買い物・理美容院・散歩に出かけるなど、一人ひとりの希望に沿うよう心がけている。敷地内のデイサービスへの訪問、旅行・外食などにより、気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のドアには鍵はない。玄関の施錠は、夜間のみとしており、日中は気軽に出入りすることができる。落ち着かない利用者には、見守りや関わりを重視して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、昼と夜の時間を想定した避難訓練を行い、避難誘導や消火器の使用方法について訓練している。非常時については、町内会にも協力を依頼している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、職員で相談しながら献立を考えている。利用者の食事・水分摂取状況を把握し、摂取量が少ない時は、好みのものを提供するなどして工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ・採光・臭いなどに配慮している。また、施設内は広く、利用者は思い思いの場所で過ごしている。季節の飾り付けも自然な物でまとめている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、使い慣れた家具類、写真や仏壇、思い出の品々等を持参している。		

※  は、重点項目。